



CONTENTS

年頭のあいさつ	2P
こんなことが決まりました	3P
11名の議員が町政を問う	4P
委員会活動報告	13P
議会報告会 他	14P
編集後記	16P



左の三次元コードをスマートフォンなどで読み取ると、町議会のホームページにリンクします。

令和8年 年頭のあいさつ



議会議長

永野 利則

あけましておめでとうございます。

輝かしい希望に満ちた新年を健やかに
お迎えのことと、心よりお慶び申し上げま
す。平素は、和泊町の町政、並びに町議会へ
の深い御理解と、議会活動に対する温かい
御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げ
ます。

さて、国内においては、急速に進む少子
高齢化と人口減少が、社会構造そのものに
大きな変化をもたらしています。本町にお
いても例外ではなく、地域活力の維持が大
きな課題としてのしかかっております。加
えて、長引く円安やエネルギー価格の上昇
に端を発した世界的な物価高騰は、私たち
の家計を直撃するだけでなく、本町の経済
基盤である農業・水産業の現場にも深刻な
影響を及ぼしております。肥料、飼料、燃料
といった生産コストの上昇は、生産者の皆
様の経営を圧迫し、厳しい経済状況が続い
ている現状を、私たちは重く受け止めなけ

ればなりません。

しかしながら、このような困難な時代で
あるからこそ、私たちは、未来への明確な
ビジョンを持って前進する必要があります。

本年は、「奄美群島成長戦略ビジョン
2033」の実現に向け、産業の振興と定
住促進にさらに力を注ぐ重要な年となり
ます。

特に、少子高齢化が進む中、町民の皆様
が安心して生活を送るために不可欠な福
祉・医療分野における人材確保は、喫緊か
つ最重要の課題です。地域全体で介護や子
育てを支える仕組みづくりを強化し、すべ
ての世代にとって安心できる環境整備を
最優先で進めてまいります。

そのための新たな戦略として、地理的に
も歴史的にも深いつながりを持つ沖縄県
との連携をこれまで以上に強化し、「沖縄
との流通確保」を強力に推進してまいりま
す。沖縄との安定的な流通ルートの維持・
拡大は、本町の基幹産業である農水産物の
販路を広げ、生産者の所得向上に直結する
重要な施策です。それと同時に、日々の生
活に必要な物資の安定供給や、観光客の誘
致、さらには活発な人的交流の促進にも大
きく寄与するものです。沖縄という大きな

経済圏との結びつきを強固にすることは、
離島のハンディキャップを克服し、島の経
済を活性化させ、住民生活の利便性を向上
させるための大きな鍵となると確信して
おります。

さらに、持続可能な町づくりに向けて、
脱炭素先行地域事業の推進や、スマート農
業の導入による生産性の向上など、次世代
を見据えた取り組みも着実に進めてまい
ります。これらの施策を通じて、基幹産業
を足腰の強いものとし、町民の皆様が安心
して暮らせる豊かで持続可能な地域社会
を築くことが、私たちの使命です。

私たちが目指すのは、「人と未来を笑顔
でつなぐ、心豊かな和の町、和泊町」を町民
とともに創り、町民に寄り添う議会運営に
鋭意努力して参ります。

どうぞ、本年も例年に変わらぬ議会への
御支援と、町民の皆様への御指導・御鞭撻の
ほど宜しくお願い申し上げます。

結びに、新しい年が、和泊町にとって更
なる飛躍の年となり、皆様におきまして
も、笑顔溢れる幸多き一年となりますこと
を心より御祈念申し上げます。年頭のあいさつ
といたします。

■令和7年 第4回 定例会(12月16日~19日)

Table with columns: 議案番号, 件名, 議員名 (議席番号順), 議事結果. Rows include items like '公共施設の改善及び増設についての請願書' and '和泊町議会議員政治倫理条例の制定について'.

※永野利則議員は議長職のため、特別多数議決以外の議案については表決（賛成・反対の意思表示）権はありません。

賛成反対がわかれた案件

発議第11号 和泊町議会議員政治倫理条例の制定について(賛成7 反対4)

Table with columns: 反対討論 (市来武次議員, 中田隆洋議員), 賛成討論 (島田浩樹議員). Contains detailed text regarding the council member political ethics ordinance.

知恵の町政運営に向けて



いちき むつく 市来 武次 議員

空路・航路の状況

問 航空路・航路の安定的な運営にあたり、どのような経営企画や働きかけを行っているか。

答 離島割引運賃の制度拡充や、運賃軽減に係る予算の確保など、関係機関への要望等について実施している。

具体的な例として「鹿児島県奄美地域離島航空路線協議会」中で、沖永良部空港を発着する機材の大型化と機材の影響による欠航・遅延が多々発生していることについて、島民に支障のないよう適切な対応を要望している。

観光産業振興

問 第2次おきのえらぶ島観光振興計画に基づいた観光振興を図るにあたっての取り組みは。

答 (一社)おきのえらぶ島観光協会を主体とし、本町及び知名町と三者で連携して策定。

- ① 観光協会のDMO登録などの組織体制強化
 - ② 観光コンテンツの造成、ブラッシュアップ
 - ③ ICTを活用した情報発信力の強化
 - ④ 観光情報データの分析、利活用
 - ⑤ 観光人材の育成等を推進
- 以上のことに取り組み、県及び奄美群島12市町村、沖縄県との連携にも力を入れ、観光を介して理想とするまちづくり結びつけていく。

行財政

問 来年度予算編成は何に重点を置いていくのか。

答 起債残高の減少、基金残高の増加及び財政指標の改善等が図られ、財政健全化は確実に進んでいるものの、予断は許さない状況にあると認識しており、今後も財政健全化に向けた取り組みを継続する。

来年度予算編成については、人への投資と町内の経済循環に重きを置き、重点新規・継続事業の充実を図り、町民のニーズに応える予算編成とする。

問 基金積立の目安は。

答 和泊町中期財政計画を策定し、具体的な数値目標を設定しており、基金残高については、35億円を確保することを目標としている。

問 税収減が見込まれる中、今後の対策は。

答 一番効果的な対策が「ふるさと納税」による収入の確保であると認識している。新年度に向けて、推進体制の再構築や町全体で「ふるさと納税」を推進する雰囲気づくりについて、対策を講じていく。

物価高対策

問 令和7年度商工会商品券配布事業の効果の検証を基に、重点支援地方交付金にどのように活かすのか。

答 重点支援交付金を活用した事業については、関係課と連携しながら、町民の皆様にとってより良い支援にながるよう検討していく。

※DMOとは？

地域の多様な関係者を巻き込みながら、データを活用して稼げる観光地づくりを推進する法人。

子どもと町の未来を支える取り組みを



あすか やまぐち 山口 明日香 議員

有害鳥獣対策

問 鳥獣被害の現状と推移は。

答 令和6年度の調査では、カラス・キジ共にはれいしょ・さといも等の被害があり、被害面積は75a、被害額は16万9千円、過去5年間で増加傾向。

問 捕獲従事者の高齢化・担い手不足への課題認識は。

答 本年度は狩猟免許試験を年3回募集しているが、受験者が少なく、若者の関心低下や銃規制の厳しさから、担い手不足が続いている。

問 担い手確保や体制強化の支援策と今後の方針は。

答 猟友会会員の狩猟免許取得・更新や講習に係る旅費の半額助成を行い、負担軽減を図っている。

今後もテレビや公式ライン、防災行政無線等を活用し、新規会員の募集に努める。

畜産振興

問 トランスバーラの導入・普及状況と普及が進まない要因、普及促進に向けた今後の支援策は。

答 本町における飼料作物面積は約425haで、うちトランスバーラの作付面積は、約1.4ha、依然としてローズグラスが主体。

普及が進まない要因は、刈取り作業の回数が多く、刈取

り回数の多さや倒伏しやすさ、灌水など管理作業の負担がある。

今後は、実験農場で育成した苗の提供や研修会の開催、関係機関と連携し、普及促進に取り組む。

学校給食

問 来年度の小学校給食費無償化に関する国の動向を踏まえた本町の対応方針は。

答 現時点で制度内容や財源措置等が示されていないため、今後の国の方針を見極めながら判断する。

これまで、米飯・パン・牛乳代を町独自で無償化し、令和4年度からは交付金を活用しておかず代も無償化してきた。

今年度も、物価高騰対策の交付金を活用し、可能な限り保護者負担の軽減に努める。

問 物価高騰前と比較した現在の学校給食における食材の質・量・内容構成などの変化の有無は。

答 食材価格の上昇時は補正予算で適切に対応してきた。給食の質・量・献立内容が低下しないよう配慮した運営が可能となっている。

物価高騰の影響により献立内容を縮小することは行っており、今後も安定した給食運営に努める。

問 黙食の状況について、継続している理由と今後の見直し方針は。

答 令和4年11月の文科省通知により、座席配置や換気に配慮した上で会話が可能となっている。

感染症の流行状況によって黙食を指導することはあるが、本通知以降、教育委員会から各学校へ黙食の継続を指導していない。

救える命を救いたい



かつら ひろかず
桂 弘一 議員

外来植物の防除

問 国際自然保護連合が世界の侵略的外来種ワースト100に選定したギンネムの防除対策は。

答 世界の侵略的外来種ワースト100に選定されており、鹿児島県の一般防除種としても指定されている。

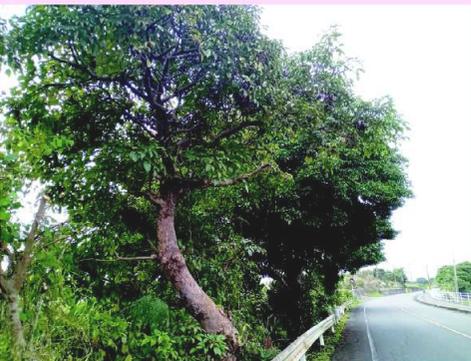
町内において広範囲に分布しており、防除にあたっては、多大な費用と労力が見込まれる。国や県の補助制度がないか模索しながら、住民の皆様や農業関係団体等と協働して防除を推進できるよう、普及啓発等を行っていく。

問 アカギやセイタカアワダチソウ等の外来種についての対策は。

答 アカギは、現在本町において各地に点在している。他の植物の生育を妨げる他、森林の多様性等にも影響を及ぼすため、今後分布範囲が拡大しないように注視が必要。

セイタカアワダチソウは、町内で6か所の群生地を確認している。これらの群生地については、耕地課職員によって、おおよその防除が完了しているとの報告を受けている。

種子やクローンによって繁殖し、高い繁殖力を持つため、県の防除マニュアルにおいては、種を付ける前の4月から8月にかけて刈り取りや抜き取りを行い、種子のみでなく、茎も残さないように防除することが推奨されている。町民の皆様には、ご自身の管理地で見かけた際に、このような防除を行っていただき、分布範囲の拡大防止にご協力を頂ければと思っています。



▲ 外来植物のアカギ



▲ ギンネム

医療福祉

問 NPO法人メッシュ・サポートへの支援は出来ないか。

答 メッシュ・サポートは、生命に危険があるが緊急度が高くない患者や、身体的な事情により民間便での帰島が困難な方の搬送を、沖縄県内外の寄付金を財源に実施している団体。

今月3日に開催された市町村長会にて、郡内12市町村が単独予算で支援していく方針を確認した。

本町においてもメッシュ飛行機事業の搬送実績があり、安定的な事業継続のためにも、前向きに支援していきたいと考えている。



町民主体の町民の為の町政を



まつむら きぬえ 松村 絹江 議員

沖永良部デマンドバス実証実験

実験前と比較して、利用者数の増減は。

答 令和7年10月15日から開始した。

利用者は、従来の路線バスは721名、一方デマンド運行は421名。300名減少している。

利用者数減少の主な要因は、予約制への変更に伴い、利用を配慮された町民が一定数いること、バス企業団のリソース不足により、すべての予約に対応しきれっていないことが考えられる。

問 利用者の声を反映して、価値のある交通機関となるための取り組みは。

答 利用者からの直接の意見やアンケートなどを通じて、予約方法・運行ルート・運行体制などに関するニーズを把握する。また、利用方法のさらなる周知徹底と、バス企業団および知名町・関係各所との連携による運行体制の充実を図っていく。



年末のゴミ収集

問 収集量が増えている現状を踏まえて、沖永良部クリーンセンターとしての対策は。

答 要因としては、正月に向けて家や倉庫の大掃除でゴミに加えて、平日なかなか持ち込めない大型ゴミなどをまとめて持ち込む傾向にあることが考えられる。

防災無線やサンサンテレビ等で早期持込について周知啓発を継続して行っていきたい。利用者の皆様も、土曜日や祝日を利用してゴミの早期持込をお願いしたい。

問 渋滞となる原因とその対策は。

答 要因としては、積載量計測器及び精算箇所が1か所にあるため、どうしても渋滞を引き起こしてしまう。クリーンセンターの建物の配置が現状のとおりであることが

ら、ゴミの量を量るため、再度、積載量計測器に乗らないといけないので、混雑している。

少子化問題

問 ふるさと留学制度の導入は。

答 山村留学制度については、学校の活力を高める有効な手法の一つであり、近隣の市町村に問い合わせたところ、数名から10名程度の児童生徒を受け入れ、児童生徒数の確保につなげている。

受け入れるためには、助成や家賃補助等の受入体制の整備、受入住宅や里親の確保、留学生の保護者の働く場の確保等が必要となる。

山村留学の導入の可能性についても、今後の和泊町の全体的な教育の将来像を見据え、考えていきたいと思う。

産業発展に資する事業推進を



しまだ ひろき 島田 浩樹 議員

脱炭素先行地域事業

問 太陽光設備導入工事の進捗と接続状況は。

答 令和6年度に、防災拠点施設やすらぎ館・有線テレビスタジオ・城浄化センター・第一中継ポンプ場の4施設に導入。

系統連携の状況は、防災拠点施設やすらぎ館および第一中継ポンプ場の2施設が、電力系統へ接続。

残る2施設についても、早期の系統連携に向けて対応を進めていく。

問 現在の電気代削減効果は。

答 九州電力に支払っている電気料金と比較して、若干ではあるが低い単価で電力を調達できる見込みであり、電気代削減効果があると認識している。

問 今年度の工事が中断した理由は。

答 PPA事業者の事業運営上の事情により工事が中断しており、本年度中の工事完了は困難な状況。

問 今後の計画変更は。

答 計画変更の具体的な内容については、現在、事業者・両町および環境省との間で協議中。

問 えらぶゆり電力（PPA事業者）採算性の見通しは。

答 PPA事業期間である17年間の収支を見通した

場合、工事費や設備の経年劣化等に伴う維持管理費、更新コストなどを踏まえると、採算面では相当程度厳しい状況。

第9次和泊町行政改革大綱

問 行政運営を効率的、効果的に発揮する取り組み

は。

答 「町民サービスの向上」・「行政運営の効率化」・「財政基盤の強化」の3つの柱で構成され、27項目の具体的な取り組みに岐している。毎年、達成状況を外部委員会において評価している。

問 財政基盤を強化する取り組みは。

答 ①財政健全化及び自主財源の確保 ②経費削減 ③公有財産の適正管理と活用。

自主財源の確保については、税の収納対策や使用料・

手数料の見直し、寄附金の向上対策に取り組んでいる。

経費削減については、各種イベントの見直し、職員・会計年度任用職員の適正配置、ペーパーレスの推進及びDXの推進を図りつつ更なる経費削減に努める。

公共施設の延べ床面積の削減や未利用公有財産の有効活用を検討し、適正管理に努めている。

《ふるさと納税の推移》

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
寄付金額(千円)	109,854	85,045	58,886
寄付件数(件)	35,052	14,379	2,867
返礼品提供事業者数(者)	54	62	55
返礼品登録件数(件)	169	210	375

和泊町の未来を考えた上で



かわま てつし 川間 哲志 議員

害虫対策

問 セグロウリミバエの対策は。

答 セグロウリミバエの状況については、本町で初めて6月30日に誘殺が確認されて以降、12月4日現在で128匹の誘殺が確認されている。

防除体制についても、門司植物防疫所名瀬支所や鹿児島県の指導をいただきながら、シルバー人材センターへの委託や技術員連絡協議会、役場各課職員の協力を得て、トラップの増設やベイト剤の散布、寄主植物の除去、簡

易誘殺剤の設置などを実施している。

町民への周知として、区長会や防災無線、SSTVでの放送を通じた、適切な害虫防除・ウリ科野菜等の寄主植物栽培のなるべくの自粛や早期の収穫等をお願いに加え、自生のスズメウリなどの除去へのご協力をお願いしている。

問 終息の見通しはできているのか。

答 今後も国・県と協議を進めながら、本町においては上述した対応の実効性・継続性を考慮の上、対応を進めていきたい。

【その他質問】

脱炭素先行地域事業

P9 島田議員参照

島を害虫から守り、有機肥料で島を潤す



ひがし ひろあき 東 弘明 議員

好気性微生物の利用

問 し尿処理後の液肥の有効活用は。

答 現時点では作物への液肥としての活用は考えていないが、今後、し尿処理施設の再整備に向けた協議について検討していく。

問 下水道の汚泥処理問題の解決策は。

答 処分方式としては堆肥化としており、資源循環施設においてバガスと混合して堆肥化を図り、農地還元に取り組んでいる。

問 沖永良部農業開発組合の堆肥に混入する草種等の問題の解決策は。

答 現在は発酵温度が70度から85度で1週間寝かし、温度が下がるタイミングで切返しを行うなどの温度管理を徹底し、草種の死滅に努め、良質な堆肥の出荷に努めている。

カラス対策

問 カラス対策は。また、捕獲箱の利用状況は。

答 今後は、稼働していない捕獲箱について、移動の検討と管理体制について区長会等で協議を進めながら、捕獲へ向けた対応を進めていく。

【その他質問】

セグロウリミバエの対策

上段川間議員参照

安心と安全、健康とスポーツを町民に



池田 正一 議員

第6次和泊町総合振興計画

問 総合交流施設建設中止に伴い、今後のスケジュールは。

答 今後のスケジュールについては、見直し案について副町長を会長として、各課・局長で組織される「和泊町振興計画策定委員会」において協議し、見直し案を決定する。その後、町長の諮問機関である「和泊町振興計画審議会」において見直し案の審議を行い、見直し案に関する答申を町長に提出する。町長は、「和泊町振興計画審議会」の答申を受けて、見直し案を議会に

議案として上程することとなる。

具体的には、12月18日に「令和7年度第1回和泊町振興計画審議会」を開催し、外部評価結果の報告、今後のスケジュール等について協議する。その後、令和8年2月を目途に審議会において見直し案の承認を頂き、パブリックコメントを実施したのち、令和8年第1回議会定例会に第6次和泊町総合振興計画の見直しに関する議案を上程する予定。

問 防災拠点施設、防災用備蓄品の現状は。

答 和泊町防災拠点施設の設置及び管理に関する条例において、防災拠点施設はやすらぎ館と定めている。食料及び飲料水は、備蓄している。

また、備蓄対策として大規模店舗と災害時の物資に関する協定締結に向けて、準備を進めている。

問 スポーツ拠点施設をどう講じるのか。

答 今後のスポーツ環境の整備については、子どもから高齢者まで幅広い町民が日常的に利用している学校体育館への空調設備の導入、照明設備の更新、老朽化部分の改修など、利用実態に即した環境整備を計画し、快適で使いやすいスポーツ空間の確保に努める。

今後とも、町民の声を伺いながら、スポーツ環境の充実に向けていく。



堆肥の活用



喜井 和夫 議員

沖永良部農業開発組合の堆肥

問 堆肥の出荷状況は。

答 堆肥の出荷状況は、今年度出荷見込み4千400tに対し、11月末時点で2千300tが出荷済み。

今後年度内の出荷見込みについては、春植え用を含めて1千350tを予定しており、令和7年度においては3千650tを出荷予定としている。残りの750tについては、令和8年度堆肥製造までの繋ぎとして確保することとしている。

町民が知って選択できる情報提供を



なかむら こ りん 議員
中村 むつ子

農業に関する法律

問 種苗法・農業競争力強化支援法について。

答 種苗法は、新たに開発された農産物の品種及びその育成者の権利を保護することを目的とした法律。

農業競争力強化支援法は、農業の競争力強化と持続的な発展を図ることを目的とした法律。

問 鹿児島県の登録品種に関して。

答 県内の地域条件に適應した高品質な品種や市場での競争力を強化するとともに多様化する消費者ニーズに

えるよう開発が行われていると認識。

問 種苗法・農業競争力強化支援法・登録品種等を認

認した上での対応策は。

答 農業者の経営を下支えし、競争力を強化するための環境整備と優良品種の適切な保護・普及啓発を行うて

ごみ処理施設

問 沖永良部クリーンセンターの時期施設整備計画の進捗状況は。

答 施設整備方針等検討委員会を立ち上げ、今後定期的に検討委員会を開催し、専門家の意見も聞きながら施設整備計画を進めていく。

【その他質問】

新型コロナウイルスに対する町の認識

ボランティア活動報告

10月1日、西郷南洲記念館と歴史民俗資料館入口のプランターにゆり球根の植付けを行いました。

西郷南洲記念館は敬天愛人発祥の地であり、西郷南洲翁に関する資料の展示・保存・収集、歴史民俗資料館は沖永良部島の民具などの文化財や記録写真・自然に関する様々な展示がされており、観光客も多く来島されます。

5月には今回植付けた島のシンボルフラワーであるゆりの花が、訪れる皆様をお待ちしております。



政治的教養を育む教育 出前授業

10月21日に高校1年生を対象にした「政治的教養を育む出前授業」が、和泊町議会・知名町議会・両町選挙管理委員会の協力のもと実施されました。

授業では、高校生のグループに議員が1人ずつ入り、ワークショップ形式で「投票を決める基準」について一緒に考え、想いを共有しました。2年後には選挙権が与えられ、実際に自分の意思で投票することになります。

意見交換の中では、「自分はこう考える」としっかり意見を述べる高校生の姿に、とても頼もしく感じると同時に、政治に携わる者として、選挙を通じて未来をつくる若者たちにどのような形で、伝えられるのかを考える一日となりました。



経済建設常任委員会 活動報告

- 期 間：令和7年10月24日(金)
- 場 所：町道ブリ石線(大城字)・半崎

町民の方からの要望を受け、経済建設常任委員会で現地調査を実施し、その後、担当課から回答を受けました。

町道ブリ石線(大城小学校近く)の法面崩壊箇所については、町道道路維持作業による石積み等の法面復旧を行うとの回答がありました。また、崩壊の一因として、ほ場内で使用されている配水ホースからの水漏れが考えられることから、今後の被災防止に向け、土地使用者と協議し、原因の除去にも併せて取り組むとの説明がありました。



▲法面崩壊箇所 (大城字)



▲半崎の砂浜への傾斜路

次に、根折字から要望のあった半崎の砂浜への傾斜路舗装については、当該箇所が筆界未定地であるため、町として舗装等の構造物を設置することは困難とのことでした。また、海岸漂着物の搬出についても、ドローン等による回収は費用や機体確保の面から現時点では難しいとの回答でした。委員会としては、地元負担の軽減に向け、引き続き検討を求めてまいります。

総務文教常任委員会 活動報告

- 期 間：令和7年10月24日(金)
- 場 所：下水道中継ポンプ場・知名役場庁舎

10月24日、脱炭素先行地域事業について閉会中の審査を実施。

現在、中継ポンプ場、やすらぎ館、庁舎周辺カーポート、城浄化センターの4か所に太陽光パネルを設置。

4か所のうち2か所(中継ポンプ場、やすらぎ館)はPCS(パワコン)を接続し稼働中。

庁舎周辺、グスク浄化場は、えらぶゆり電力(PPA事業者)の資金繰りの影響で接続されていない状態。

接続されている2か所の電気代削減効果は低い。



▲中継ポンプ場



▲DGR(デジタルグリッドルーター)

令和7年度当初予算に計上されていた、脱炭素先行地域づくり事業における太陽光パネル設置工事は、和泊町役場、沖永良部クリーンセンター、城ヶ丘中学校、実験農場の4箇所に設置予定であったが、えらぶゆり電力(PPA事業者)の影響で工事は中断している。

令和7年度 議会報告会

11月19日にやすらぎ館、20日に玉城字公民館で議会報告会を開催し、延べ29名の町民の皆様にお越し頂きました。委員会別に初めてワークショップ形式で行い、地域課題や議会に関する御質問や御意見など、多数頂きました。ご参加いただいた町民の皆様には、感謝申し上げます。



【総務文教常任委員会】

Q 総合交流施設の建設はしないほしい。

A 第6次総合振興計画で重要な事業であり、慎重に議論していく。

Q 総合交流施設建設について、2次・3次産業の活性化になる。大会で島外に行く保護者負担を軽減してほしい。

A 第6次総合振興計画で重要な事業であり、慎重に議論していく。

Q 体育館はあった方がよい。知名町と共同で建設計画にすることはできないのか。

A 知名町議会の一般質問で、共同で建設できないかと質問があり、当時の教育長が現時点では共同の建設は検討していないと答弁。

Q 小学校と中学校の統廃合について、こどもの意見や保護者の意見を聞き検討すべきである。

A 中学校・小学校の合併については、地域の保護者や地域の方々の合意形成が必要。教育委員会が主体となつて学校あり方座談会を開催し、町民の意見を集約している。

Q あり方座談会の時間等の再検討について、子育て世代が参加しやすい、平日の日中にも開催してほしい。

A さまざまな会の開催時間の在り方を、所管課に要望していく。

Q いじめ不登校について学校や行政がどのように取り組んでいるのか。

A 学校では学校生活に関するアンケートやこどもや保護者を対象に、相談・面談を実施し、児童生徒の小さな変化を見逃さず、早期発見に努めている。

Q 保育所の待機問題や途中入園も可能な柔軟な体制にしてほしい。

A 乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)を令和8年度から実施。0歳から2歳児の乳幼児対象。

Q 地域の活性化(こどもたちを増やすため)のために内城団地を新しく建てたのに、大城こども園と内城こども園を統合するのはなぜか。

A 大城・内城こども園の統合について保護者アンケートを実施。結果、多数意見であった。地域の活性化には、必要な施設であると感じているので子ども、保護者の意見を重視する。

Q 島外から移住を検討するが、住みたい住宅が見つからない。(家賃額も移住のネック)

A 教員住宅の空きが数件あるため、子育て支援住宅にできないか要望していく。

Q 島外に出ないと試合ができない、離島のこどもはハンディがある、遠征への助成が不足しているので拡充してほしい。

A 現在、スポ少及び部活動等の島外遠征に係る経費に対して、スポ少は7割・中学生には6割の補助金を支給している。また、こども夢応援プロジェクトとして、小学1年生〜高校3年生までのこどもたちへの旅費の一部を支給する事業も行っている。中学生に対しては、令和6年度から主要な大会以外の大会へも補助金を支給できるように規則改正を行った。

Q こども未来課は、町民支援課からこども園の業務が分かれただけで、課長の人件費が増えただけ、こどもを増やす施策があるべき。教育委員会とこども未来課の共同的な業務遂行が必須で、課をスリム化すべきでは。

A 第9次行財政改革大綱所属間を横断する事務に対応していくと記載されており、こどもに携わる窓口の一本化やこども政策に対して要望していく。

Q 総合交流施設、脱炭素事業等において、町の対応が後手になっている。知名町は元気があがる泊町は元気がない、住民が元気になるべく力のある町づくりをしてほしい。

A 総合振興計画が、計画通りに進んでいない現状に町民の皆様にはご迷惑をおかけしている。総務文教委員会で協議ししっかりと進めるようにしていく。

その他要望

- 人口減少の原因について調査してほしい。
- 島外移住における子育てに対する補助の検討について。
- 島の魅力発信について。
- こども達が学校を楽しく過ごせる環境整備について。
- 土曜日におけるこどもたちの居場所や食への対応、体験活動確保方法について。
- 財政事情を町民に対し説明会をしてほしい。
- 防災無線が聞きづらい。
- 長浜の砂浜が減少しているので対策をしてほしい。
- 議会報告会の開催時間をのばしてほしい。

〔経済建設常任委員会〕

◆水産振興について

Q 燃料費高騰に伴う漁船漁業への支援策について

A P4 中田議員一般質問参照。

Q 水産資源の減少に対する回復施策と陸上養殖の導入に向けたビジョンと支援策は。

A P4 中田議員一般質問参照。

◆水かけ農業について

Q 畑かん・地下ダムと連動させた埋設型散水設備導入はできないか。

A P4 中田議員一般質問参照。

◆農業用ため池について

Q 土砂流入によるため池機能の低下への対策は。

A P4 中田議員一般質問参照。

Q 使われなくなったため池の再利用をどのように考えているか。

A P4 中田議員一般質問参照。

◆カラス対策について。

A P6 山口議員、P10 東議員一般質問参照。

◆ギンネムの防除について。

A P7 桂議員一般質問参照。

◆セイタカアワダチソウ等の外来種の防除について。
A P7 桂議員一般質問参照。

◆その他

● 子どもの通学路 水たまりが多く、子ども達にかかっているのを見かける。フラットにして欲しい。(委員会現地調査します)

● 販路拡大 沖縄からのルートがあれば問題ないのでは。沖縄市場はほぼバイヤーへ。(委員会調査します)

● ヤジャゴの清掃(再要請します)

● 世の主団地から内城小への通学路、歩道がまだ出来ない箇所がある(委員会現地調査します)

● 補助事業(農業機械・資材・ハウス・平張り)の拡充を

予算を取って農家へ安く導入して欲しい。(委員会から要望書を町長・奄美群島広域事務組合へ提出します)

● 県道(伊延→根折)根折の入り口道路の整備要望(委員会・県建設課と現地調査します)

● 石灰の利活用 旧バイオセクターを活用した土壌改良剤。(委員会現地調査します)

総務文教常任委員会
学校・所管施設訪問

11月11日に教育委員会の所管する施設について訪問を行い、各小中学校や研修センター、町立図書館等の管理・運営状況について確認し、意見交換等を行った。

各学校においては、それぞれに特色があり魅力ある学校づくりに取り組んでいた。昨年度の備品購入要望や修繕要望等も改善がされていたものの、授業で活用するモニターの画面の色が薄く、電気を消して授業を行わなければならない、生徒の視覚に影響する場面があった。また、教室壁の劣化等もあり、児童生徒の教育環境の改善について要望を行なった。

和泊小学校



▲西門フェンス



▲体育館壁



▲体育館トイレ

城ヶ丘中学校



▲LED化された照明 ▲理科室入口 ▲教室壁

議会広報研修会

11月6日マリンパレスがごしに於いて、町村議会広報研修会が開催されました。

研修会では、広報サポーターの芳野政明氏より、『多様な情報発信で議会の「見える化」&市民との「信頼築く」議会広報の基本と編集』と題し、講演が行われました。

各市町村の議会だよりを例にし、情報発信・紙面の見やすさ・住民参加を促す議会広報・読まれ伝わる議会だより等具体例をあげ、紹介がありました。

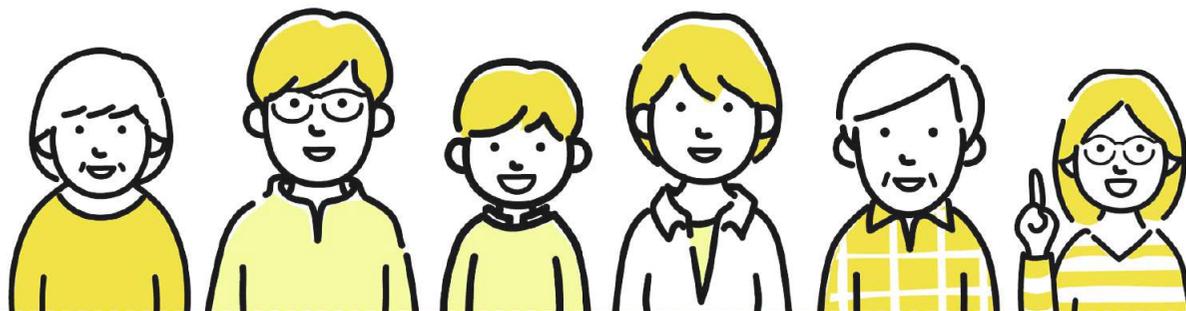
分かりやすく読みやすい紙面づくりを意識して、今後の広報誌編集に活かしていきます。



議会を傍聴してみませんか

町の予算や身近な問題について話し合う大切な場で

**だれでも自由に
見たり、聴いたりできます！**



令和8年第1回議会定例会（予定）

日	月	火	水	木	金	土
3/1	2	3 本会議初日 一般質問 (9:30~)	4 一般質問 (9:30~)	5	6	7
8	9	10	11 休会	12	13 本会議最終日	14

本会議場での傍聴

- 本会議の受付所…役場2階 議場入口
 - ①傍聴者名簿に名前を記入
 - ②一般質問通告書をもらい入場

テレビでの視聴

- 一般質問の様子をサンサンテレビで生放送(再放送2回あり)

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

令和8年がスタートしました。我々議員もより一層議会活動を活発化し、町の発展に寄与して参ります。

本年もよろしくお願ひ致します。



議	發	編	委	委	委
長	行	集	員	員	員
永	責	任	長	長	長
野	任	者	島	川	中
利	者	■	田	間	村
則			野	田	来
			浩	哲	武
			志	志	次
			樹	樹	次

今号の表紙



二十歳を迎えられた皆様、おめでとうございます。成長された姿を拝見でき、地域の一人として頼もしく思いました。皆様のご多幸とご活躍をご祈念申し上げます。